

# 精神・心理ストレスと 心血管障害

Psychological issue and cardiovascular diseases

眞茅 みゆき Miyuki Makaya・筒井 裕之\* Hiroyuki Tsutsui

北里大学看護学部看護システム学教授  
北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学教授\*

## Summary

心血管障害における精神・心理ストレスは、発症の危険因子であるとともに発症後の予後やQOL悪化の規定因子でもあり、心血管障害の一次予防～三次予防までの幅広いステージで適切な治療が求められるが、そのメカニズムについては十分に解明されていない。また、精神症状を有する心血管疾患患者に対する薬物治療、非薬物治療に関するエビデンスは十分とはいえず、今後さらなる研究が求められる。加えて、日常臨床での早期発見・治療のためのスクリーニングや治療においては、循環器医と精神科医、心療内科医、臨床心理士との連携、協力がさらに強化されることが必要である。

## Key words

- 心血管障害
- 精神ストレス
- 抑うつ
- 不安
- スクリーニング

## はじめに

心血管疾患患者において、精神・心理ストレス、主には抑うつ症状や不安症状の合併率が高いことは、以前から指摘されている。心血管障害における精神・心理ストレスは、発症の危険因子であるとともに発症後の予後やQOL悪化の規定因子でもあり、心血管障害の一次予防～三次予防までの幅広いステージで適切な治療が求められる。

本稿では、心血管障害のなかでも冠動脈疾患、心不全における精神・心理ストレスに関する研究結果を概観するとともに、効果的な介入を構築するための課題について論じる。

## 1 冠動脈疾患

一般住民を対象とした多くの疫学研究において、抑うつは冠血管疾患の発症リスクを1.5～2倍に上昇させることが明らかとなっている<sup>1)</sup>。2000年に発表された65歳以上の米国人4493人を対象とした疫学研究では、抑うつ症状をCenter for Epidemiologic Studies-Depression Scale (CES-D)で評価し、6年間の心血管